



滋賀県草津市立草津中学校

令和4年7月19日(火)発行

「いのちがやき 心豊かな生徒の育成」
～ひとを大切に ひとつを大切に～

7月19日現在 全校生徒数663人



育ち合う「出会い」

～日々の小さな出会いを通して～

校長 高田 聡

いよいよ1学期が終わり、夏休みが始まります。新年度が始まり4か月余りが経ちました。その間、私たちは様々な「出会い」を経験しました。日々の暮らしの中で、私たちは多くの人に出会い、様々な出来事に遭遇します。そうした一つひとつの「出会い」に対して、日頃どのように心を向けているのでしょうか。

「出会い」を大切に受け止めよとする心の姿勢は、日常の小さな言動の中にも表れてくるように思います。例えば日々様々な人たちと交わすあいさつ。私たちが進んであいさつするときは相手に向かって心を開き、その場での「出会い」を前向きに受け止める心の準備ができていように思えます。イライラとした気持ちでいるときは、そうした心の準備はしにくいでしょう。

心に余裕がなく、「忙しい、忙しい」とばかり思っていると、人との「出会い」をよりよく生かそうとする気持ちは薄れてしまうのかもしれない。また相手を受け入れようとしない、かたくなな気持ちでいる場合もその「出会い」を自分自身の人間的成長につなげていくことはできないでしょう。「啐啄(そったく)」という言葉があります。卵の中で今まさに生まれ出ようとするヒナが内側から殻をつつくと、その動きを感じた親鳥は外からつついてこれを助けようとします。内と外からつつくそのタイミングがうまく合ったときに、殻が割れてヒナが誕生するのです。人と人の「出会い」もこれに似たところがあるのではないのでしょうか。自分が「相手を受け入れる心の準備」をすることの大切さは言うまでもありませんが、それが相手の呼吸とも合ったとき、「お互いに育ち合う」という関係性に発展していく可能性が生まれるのでしょうか。

私たちの日常生活は多くの人との関わり合いの中にあり、そこでは日々様々な「出会い」を経験することになります。そのすべてが親密な人間関係に発展するとは限らず、「あるときたまたま、ほんの少し関わりを持っただけ」で終わる場合も少なくありません。それでもお互いに「育ち合う」という関係性は、家族や友人といった狭い範囲内にとどまるものではないはずです。行きずりの人から受けた親切が心に響いて、「自分も誰かに対して思いやりの心を発揮できるように」と考えることもある



<2年校外学習・平安神宮>

「ひとりを大切にする」という姿勢を培い、人生を心豊かなものにしていく上でも重要なことなのです。



<1年校外学習・ドラゴンボート>

でしょう。相手のことをよく知らなくても、また直接的に接するのはその一回きりだったとしても、「あのとき偶然に出会ったあの人の一言に、勇気を与えられた」「大切なことを学んだ」という経験を持つ人もいます。日々の「小さな出会い」もまた、自分自身を形づくっていく要素であり、どのような相手とも「育ち合う」という関係になれる可能性がある・・・そう考えたなら、一つひとつの「出会い」を前向きに受け止めよとする気持ちが湧いてくるのではないのでしょうか。それは「一人ひとりを大切に」